

## 県外派遣報告書

審判員名	若林 哲	所属	中体連		
大会名	第25回関東高等学校バスケットボール新人大会				
期間	平成27年2月6日(金)～8日(日)				
会場	ALSOKぐんまアリーナ				
スケジュール					
期 日	内 容	場 所			
2月6日(金)	審判会議	グレースイン前橋会議室			
8月9日(土)	1回戦、準々決勝	ALSOKぐんまアリーナ			
8月10日(日)	準決勝、決勝	ALSOKぐんまアリーナ			
会議 講義 内容					
<p>審判会議において安西ブロック長より、関東ブロックは日本の中心であること、そして今回派遣されている審判員は今大会を成功させるために召集された者であり、各都県の狙いや希望がたくされているというお話があった。またこの舞台で試合を無難に治めるのではなく、チャレンジする気持ちを忘れずに自分の持っているものを存分に発揮して欲しいとお話があった。</p> <p>今回指名で派遣された谷古宇氏からは、今大会は新チーム初の大きな大会であること、正しいルールをはっきりとチームに示すことが大切とお話があった。そしてゲームコントロールをする上で技術、戦術、心理を理解することが重要だとお話があった。吉田氏からはAA級に昇格するまでの過程についてお話を頂き、このような過程を苦労だとは思っていないこと、ゲームを担当する上で「いいバスケットをさせるにはどうすればいいのか？」を常に考えているとお話があった。そして今大会の2日間でいいものをどんどん盗もうという前向きなお話を頂いた。</p> <p>2日目には安西ブロック長のレクチャーが行われた。「よりよい判定のために」というテーマで、「笛で勝ち負けを決める」ことはあってはならないこと、全く同じケースはないが、同じようなケースはある。そのような場面に備えてインプットすることの重要性をお話し頂いた。また良いタイミングで良い位置取りをする努力を惜しまないことが審判員としての最低限のモチベーションであり、そのためには予測とバスケットの理解が必要不可欠とお話があった。</p>					
実技					
担当試合	期 日	2月7日(土)	男子	1回戦	
	対戦カード	新島学園	VS	市立船橋	主審
	相手審判	大山 賢史氏(栃木県)			
ミーティング内容		主任	大川 尚氏(千葉県)		
<p>ゲームを通して大きな現象もなく、スムーズに進行していた。だからこそアドバンテージ・ディスアドバンテージを見極め、判定をしてほしかった。スクリーンのセットに関してはグレイゾーンが多く、判定しきれていない印象がある。ケースで言えば一番最初のスクリーンが笛を入れるべきプレイだった。トレイル時にやや高い位置で止まってしまう傾向があります。ハイポストからのジャンプショットなど、必要なタイミングとスピードで下りて横のスペースを捉えに行ったほうがよい。</p>					
全体の感想					
<p>今回初めて他連盟の県外派遣に参加をさせて頂きました。今回は主審を任されました。県内の高体連のゲームでも主審を任されることはなく、とても緊張感がありました。試合自体には自然体で臨むことができ、両ベンチ、TO、フロアキーパーなど目に見えるものはしっかりと管理しようという気持ちで臨みました。判定に関してはゲームの序盤で示すべき基準の笛を示すことができなかつたり、チープなものを取り上げてしまうなど課題が残りました。今大会、関東講習で顔を合わせた方々とも再会し、そのうちの数名が来年度昇級することのことで、昇級への気持ちをまた新たにしました。そして今年度で引退される平氏と安富氏の笛やお話を現場で体験することができたことは大きな経験でした。この経験を「いい経験をした」で終わらせてはいけないと思っています。今後もレベルアップ・ランクアップを目指して精進していきたいです。</p> <p>今大会において群馬県協会の方々には大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。また派遣して頂いた埼玉県協会のためにも、レベルアップ・ランクアップを目指して日々精進していきたいと思っております。ありがとうございました。</p>					